

震災復興

まちづくり訓練

ニュース

平成30年10月

【発行】 港区 高輪地区総合支所 まちづくり課
まちづくり係 電話：03-5421-7615

第1回訓練（ガイダンス）を 開催しました！

「震災復興まちづくり訓練」は、通常の防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成30年10月2日（火）、ゆかしの杜・区民協働スペースで第1回が行われました。地域の方々、区職員、専門家、計46名が集まり、市古太郎先生（首都大学東京教授）、土井成三さん（北口・高木まちづくり協議会（西宮北口駅北東地区）元会長）のお話を聞いて、まちの復興とはどんなことか、イメージを膨らませました。（裏面をご覧ください）



テーマ

第2回 開催案内

震災被害をイメージして復興課題を考えよう！

日時：平成30年11月3日（土） 9:30~12:30

場所：ゆかしの杜6階 区民協働スペース

歩きやすい服装でお越し下さい。
雨天の場合も実施します。

内容（予定）：

- 震災で、どのような被害がどこに起きやすいか、防災や復興に役立つ資源がどこにあるか、まちを歩いて確認します。
- 復興の重要なポイントやテーマ、復興の方針づくりなどを話し合います。

復興のまちづくりに備えることの大切さ ~基調講演より~

「現代都市の震災と復興に備える重要性」(首都大学東京 市古先生)



なぜ復興に備える必要があるのか、東京で起こり得る地震のイメージや、阪神・淡路大震災の時の地震後のまち、仮設住宅での生活の様子などの映像を見ながら、イメージを膨らませました。

次に、冊子「東京くらし防災」をみながら、この訓練を通して「生活再建に向けて」(p158)をより深く考えていくことが大事だということをお話いただきました。



「復興のまちづくりに備えることの大切さ~阪神・淡路大震災の経験から~」 (北口・高木まちづくり協議会(西宮北口駅北東地区)元会長 土井さん)

大震災でどのような被害を受け、まちづくり協議会の立ち上げや話し合いにどのような苦労があったのか、お話をいただきました。地域の皆さんがある程度顔見知りになっておいてほしい、行政による支援体制を事前にしっかり作っておいてほしい、といったメッセージをいただきました。



Q コンサルタントの方は、どのような経緯で入ってこられたのでしょうか？

A 地震の前に密集したまちの調査をしていて、まちの状況をよく知っている方が、行政から依頼されて、入っていただきました。

Q イベントで顔見知りになるというお話がありましたが、どのようなイベントをしたのですか？

A 春祭りや秋祭り、夏休みのラジオ体操、餅つき大会、防災イベントでは緊急貯水槽の水で非常食を食べてみたりしています。

Q 土地区画整理事業で復興のまちづくりを進めていくために、経済的な問題はどのように大変だったのでしょうか？

A 事業費や負担は精密な計算をしないと分からないものです。全体のグランドデザインはみんなで検討し、個々の権利関係は行政が個別に詰めていきました。

Q 借地や借家の方は、まちづくりの検討に参加できたのでしょうか？

A 借家の方も入居できる住宅を建設したり、借地の権利を精算して共同建替えをしたりしました。借地の方は割と参加されたと思います。

Q 今、まちづくり協議会はどうしているのですか？

A 休眠中ですが、その活動を契機に公園管理委員会で様々なイベントなどを行っています。

Q 成功したことと、うまくいかなかったことは？

A 例えば道路では、幅4mにした所で6mの方が良かったかも、といった話があります。昔の面影が全くないのが難しいところだと思います。

復興問題トレーニングをやってみました ～被災後、どんなことに困るでしょうか？～

訓練の方法である“ワークショップ”を体感しながら、当地区で被災したらどんなことに困るのか、4つの班で考えてみました。

班ごとに、なりきる家族構成と住まいの被害を2つ決めました。

その家族が、震災1週間後、1か月後、3～6か月後に、どこにいて、どんなことに困っているか、イメージを出し合いました。



1班

「古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦と猫」で「全壊」を選びました。1週間後は、避難所にいますが、薬や入れ歯、トイレの我慢から健康の問題、猫のいる場所等の心配事が挙げられました。その後は頼れるところがある方は移り、仮設住宅ができれば入居しますが、猫も一緒に入居できるものが必要という話がありました。

次に、「マンション住まいの4人家族」で「一部損壊」にしました。共通な課題として先立つお金が必要ということ、生活再建につながる「り災証明」の手続きがどうなるのかが心配、両親が働いている家族の小さな子どもをどう対応できるのか、といった課題が出されました。



2班

「戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦の世帯の家屋」が「半壊」の被害を受けたケースについて話し合いました。自宅は構造的に安全な場合でも、被災後の災害弱者のケアが行き届かないことが課題としてあげられました。

次に、マンションのお住まいのかたで、「一部損壊」のケースについて、直後には、電気（エレベーター）や水の問題があることや、単身者用の賃貸マンションでは、住民のコミュニティが希薄なことが課題としてあげられました。

最後に、町会の役割について話し合われ、日頃の防災協議会などの活動を災害時に活かすことが重要だという意見がありました。



3班

「大規模半壊」の「古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦と猫」を選びました。1週間後は避難所と自宅を往復して、ゆかしの杜かいきいきプラザで生活し、食事や水、薬の確保、トイレ、猫のことを心配していると考えました。1か月後には娘の家に移り、家を修理するかどうか、売るにしても土地の価格が気になると考えました。3～6か月後は仮設住宅か高齢者住宅に居り、悪いデベロッパの心配や、助成制度等が分からず専門家に相談したいが誰にしたら良いか分からない、といった心配事を想像しました。

次に、「戸建住宅に住む3世代家族」とし、大家族で安心な反面、大規模半壊だと修繕して住み続けるのは難しい等の意見が出されました。



4班

「80歳前後の高齢者二人と猫」、住宅は「一部損壊」のケースです。電気・水道が使えないので、直後は避難所に行きたいけど、うまく避難所に適応できるかどうか、ネコが避難所やキャリーケースで大丈夫かが気がかりです。1か月後、物流が回復していれば、ふだんの生活に戻りたいが、断水なので給水場所から運べるか、薬が入手できるか、6か月後は住宅の修理をどうするか心配です。

次に、「マンションの4人家族」、「無被害」、こういうケースは多いはずです。建物が大丈夫でもトイレや水の確保や家の片付けなど、家族やマンションぐるみの問題がありそうです。このまちは新しい建物が多く地盤もよいので、どう生活を維持するかなどまちの特性に合わせて考えたいということでした。



発表を聞いて～本日の講評～

★土井さんより



4回の訓練で終わらないで、何か小さなことでいいので続けていってほしいと思います。

★市古先生より



被災者の方への調査で、「人のつながり」が復興の実感に影響を与えるという結果があります。復興とは、震災によって大きな変容を迫られた社会の中で、被災者が生活の変化にうまく適応するための営みです。このような復興に取り組めるよう、この訓練を続けてほしいと思います。